

第2回町田市庁舎跡地等検討委員会議事要旨

日 時	2010年11月19日 18:30~20:30	場 所	市役所本庁舎 地下1階 特別会議室(大)
出席者	<p>【委員長】中井委員 【副委員長】柳沢委員</p> <p>【委員】中里委員、盛永委員、土方委員、鈴木委員、池田委員、三ノ輪委員</p> <p>【事務局】倉田政策経営部長 企画政策課：市川課長、岡田課長補佐、井上統括係長、吉田主任、石川主任、平野主任、藤田主事</p> <p>【関係部署】管 財 課：市村課長、塩田課長補佐 産業観光課：池ノ内担当課長、伊奈主査、地寄主任</p> <p>【パシフィックコンサルタンツ㈱】坂口、岩田、山口</p> <p>【傍聴】14名</p>		

1. 開会

鷲北副市長より開会の挨拶があった。

- 庁舎跡地等は町田市全体の財産であると同時に、その活用は周辺住民の生活に大きな影響を及ぼす。また、市の財政は非常に厳しい状況にあり、そうした状況を踏まえて、庁舎跡地等の具体的な活用方法についてご検討いただきたい。

2. 第1回町田市庁舎跡地等検討委員会議事要旨の確認

第1回町田市庁舎跡地等検討委員会議事要旨について、資料1に基づき、事務局から説明。
第1回町田市庁舎跡地等検討委員会議事要旨を確定した。

3. 第1回委員会のご意見について

第1回委員会のご意見と対応について、資料2に基づき、事務局から説明。
第1回傍聴者意見について、参考資料1に基づき、事務局から説明。

4. 活用に向けた基本的理念の方向性について

立地特性とアンケート調査について、資料3に基づき、事務局とコンサルから説明。
栄通り商店会における検討と町田市中心市街地活性化協議会について、資料3に基づき、鈴木委員から説明。

5. 市民アンケートについて

検討のスケジュールと市民アンケート調査の実施について、事務局から説明。

6. 質疑及び意見交換

○ 意見等

- 委員：地元を中心とした8名の委員の意見だけでは偏りが出ると思われるため、アンケートを早い段階で実施し、その結果を基に議論を行った方が、効率が良く、活用の方向性を導き出しやすい。商業の核となるような施設が良い。
→委員：本庁舎での来庁者アンケートの回答者は、本庁舎近くに住む人が多くな

り、意見が偏ると思われる。

→事務局：来庁者アンケートでは回答者の居住属性は確認していないが、市民アンケート調査では居住属性が分かるように実施する予定である。

→委員：市民意見は参考にすべきだが、集約した市民意見を基に、我々委員がそれぞれの立場から意見を出して活用方法を決めていくことが重要である。

⇒委員長：今後、中心市街地において市が活用できる大規模な土地は、本庁舎跡地と中町第三庁舎跡地が最後と考えられるため、重要な検討である。委員会と事務局がそうした意識を持って活用方法の検討を進めることを再確認した。

- 委員：2012年の3月に活用の基本構想をまとめる検討スケジュールは長すぎる。新庁舎への庁舎機能移転後、庁舎跡地等は数年間空き地になる可能性があり、周辺の商店の衰退が懸念されるため、仮設でも集客力のある施設が必要である。

→事務局：市民への説明や意見を集約しながら活用の方向性を導き出すには、必要な期間と認識している。

→委員：市の財政状況が厳しいのであれば、市民が集える場所として、公園や緑地として活用することも考えられる。

→事務局：市の財政状況が厳しいとは、建物の建築の時期を明言することが難しいということであり、建物の建築そのものが困難ということではない。

→副委員長：活用の方向性を導き出すには、2・3年はかかることから、暫定利用の検討も必要である。例えばバザーのようなものが開ける場所を作ってはどうか。ヨーロッパではイベントを開催しながら、活用に至るプロセスの中で市民を巻き込んでいく事例がある。

→委員：中心市街地では、都心に行かなくても何でも揃うが、目に見えない文化や憩いの場が不足している。市民の暮らしの豊かさとしては、経済的な豊かさ以外にも、アートや自然などの心を満たすような豊かさもあると思う。様々な要素を上手く組み立てることが必要である。来街者や住民にとって憩いの場となる公園の設置も1つの案だと思う。大きな庭となり、訪れる人が増えると思う。

⇒委員長：暫定利用などにより、跡地活用の実現までの期間、空き地にならないようにすることを留意点の一つとする。

- 委員：市民アンケートについては、なるべく早い段階で実施した方が良い。これまでの意見の中で、例えば文化施設に対する要望が多いのであれば、市民アンケートの中で具体的な文化施設の種類について聞くと良いのではないか。例えば、プラネタリウムや鉄道のジオラマなど、何かインパクトのあるものがほしい。民間による子ども施設も、活性化につながると思う。また、全6回の委員会で議論がまとまるのかを危惧しており、ワークショップのような形式で、詳細な議論を行う必要がある。

→事務局：市民アンケートの中で具体的な施設について聞くことは可能であるが、選択肢に該当しない自由回答で挙げられた意見の扱い方が課題となる。

⇒委員長：活用の方向性だけでは設問が漠然としているため、方向性と具体的な施設を関連付けるなど、設問項目を修正し、委員長・副委員長の了承を得た後に実施する。

- 委員：現実的には、いくつかの機能を併せ持った複合施設になると思われるため、

そのことを踏まえてアンケートに回答できるよう配慮する必要がある。

→委員：本庁舎跡地と中町第三庁舎跡地ではそれぞれ特徴が異なるため、アンケートとしてもそれぞれの跡地について分けて聞いた方が良いのではないか。

→委員長：本庁舎跡地と中町第三庁舎跡地はだいぶ性格が異なるため、アンケートには工夫が必要である。

- 委員：新庁舎のように、ワンストップで行政サービスが受けられる施設が良いのではないか。例えば、保健所や図書館、福祉施設などが考えられる。また、中町第三庁舎跡地に交通施設を入れることが考えられる。

→委員長：市として公共施設の集約化の予定はあるか。

→事務局：議会において近隣の公共施設についての意見をいただいている。分散している公共施設の機能の集約は可能性があるが、現段階では市の計画はない。

- 委員：本庁舎から小田急線第二踏切を經由し、線路沿いを栄通りに抜けるバスルートとなっている道が狭く危険なため、小田急線沿いのバスルートにあたる地区の再開発により道路を整備するなどの方法で解決できないか。また、原町田地区で不足している公園を、中町地区に作るという案がある。

→委員：駅周辺にいつもタクシーが並んでおり、渋滞の原因になっている。また、観光コンベンション協会では、中町第三庁舎跡地をホテルとして活用するという意見がある。

→副委員長：周辺地域では、再開発事業などにより土地活用が図られる可能性が他の場所にもあると思われる。そうした状況もふまえて、中心市街地としての面的に捉えた戦略が必要であり、その戦略における対象地が担うべき役割について考える必要がある。

→委員：この地区としての5年後10年後の将来像を考える必要がある。

→委員：町田市全体としての視点で考えることも必要である。

→委員長：周辺地域の課題を解決するために対象地に求められる機能について、事務局で検討する必要がある。特に交通の問題については、この地域と他の地域のつながりに関わる問題であり、重要である。また、周辺地域におけるまちづくりの戦略を見すえ、市民意見を丁寧に組み入れる必要がある。検討のスケジュールは、基本的に資料4の通りとするが、ワークショップの実施など、緊密なコミュニケーションを図りながら市民意見を聞く方法を検討すること。

7. その他

第3回町田市庁舎跡地等検討委員会を2月24日の夕方から開催することを確認した。

8. 閉会

倉田政策経営部長より閉会の挨拶があった。

以上